



ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会

令和7年度 三陸ジオパーク認定ガイド スキルアップ研修会を実施



三陸エリアを研究フィールドとする原田専門員



ガイドは副業。と多くの事業に携わる佐藤ガイド

令和8年1月21日（水）に、三陸ジオパーク認定ガイドを対象とした、スキルアップ研修会を宮古市の浄土ヶ浜ビジターセンターにて実施しました。現在74名の登録がある認定ガイドのうち、22名が参加。講師には、栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門員の原田拓也様と同ジオパークガイドの会副会長の佐藤鉄也様をお招きし、講演や事例共有、フィールド研修等を実施しました。

まず、原田様による講義では、自身が学生時代から三陸を研究フィールドとされていることもあり、より専門的な視点で三陸ジオパーク中部エリアの地質学的特徴や今後の研究の可能性についてご講演をいただきました。

続いて佐藤様による事例発表では、栗駒山麓ジオパークガイドの会で対応しているジオパーク学習や視察対応等でのガイド活動の事例やガイドの会の自主事業についての説明のほか、ガイドをする際に意識していることなどについてお話いただきました。

また、三陸ジオパーク認定ガイドの佐々木洋介ガイドに案内をいただきながら、浄土ヶ浜～蛸の浜でのフィールド研修も実施しました。途中、あいにくの雪に見舞われましたが、参加者同士で知識を共有しあう場面も見られるなど、非常に有意義な時間となりました。

来年度以降も、認定ガイドの皆様のスキルアップにつながる研修の機会を設けていきたいと思っています。

講師をご担当いただいた原田様、佐藤様、ありがとうございました。



浄土ヶ浜も長い年月の間にはその姿が変わるといふジオ話も



停泊するうみねこ丸が見えるデッキに集合し、現地研修へ



氷柱ができていたトンネルをぬけると、そこは「蛸の浜」



浄土ヶ浜の成り立ちから、目の前の景色のジオ話を聞く

❄️冬はジオの観察に最適❄️ 龍泉洞の地底湖

岩泉町にあるジオサイト「龍泉洞」は、約2億年の時を経た巨大な鍾乳洞であり、日本三大鍾乳洞の1つです。洞内では、世界屈指の透明度を誇り「ドラゴンブルー」といわれる大規模な地底湖と多彩な鍾乳石群の美しい造形を見ることができますが、特に冬季は雨水があまり流れ込まないことから、地底湖の透明度が高く、より澄んだ青色が見られます。



龍泉洞冬まつりの期間にはイルミネーションが華やか

冬季は洞内に生息している5種類のコウモリが天井にぶらさがって冬眠する様子も観察できます。ひとつの洞内で複数種類のコウモリが確認できるのは珍しく、耳の長いウサギコウモリ、鼻が複雑な構造をもつキクガシラコウモリ、やや小型で腹面がうすく褐色のコキクガシラコウモリなど、学術的にも貴重なコウモリも確認されており、鍾乳洞とともに天然記念物に指定されています。

夏にはひんやりと涼しい洞内は、年間を通して10℃ほどで一定なので、寒い時期に入洞するとあたたかく感じます。

室戸ユネスコ世界ジオパークを見学してきました (山田町ジオパーク専門員 里)

2025年12月8日（月）～12日（金）に室戸ユネスコ世界ジオパーク（高知県）等を見学してきました。室戸ユネスコ世界ジオパークは、三陸ジオパークと同様に海洋プレートの沈み込みに伴う大規模な変動域にあって地球科学的に興味深いばかりでなく、巨大地震やそれに伴う津波被害を繰り返し被ってきた地域にあるなど、共通点がたくさんあります。

拠点施設であるジオパークセンターは廃校となった中学校の旧校舎を大幅に改修・改装の上で利用していて、かつての教室を地球科学的な特徴、地場産業、地元の文化・歴史などのような各テーマに応じて使い分けており、系統的でわかりやすく展示・解説をしています。また、いわゆる南海トラフ巨大地震を意識した展示・解説も多く、来訪者の理解を積極的に促しているようでした。なお、ユネスコ世界ジオパークとして必須ということで、動画を含めてほぼすべての展示・解説には英語による表記もされています。



ジオパークセンター内の地球科学的な解説展示室



室戸世界ジオパークセンターの外観



海洋プレートの沈み込みに伴う巨大な圧力で曲げられた岩石が見られる室戸岬サイト（左・右共）

室戸ユネスコ世界ジオパークの代表的なサイトである室戸岬は、海洋プレートの沈み込み帯に面しているという特徴がみられる最たるところであり、その沈み込みに伴う巨大な圧力によって捻じ曲げられた地層や岩石は地球のダイナミックな活動を目の当たりに見せてくれます。行当－黒耳海岸サイトや、かつての海底火山の噴火の痕跡である枕状溶岩が見られる日沖－丸山海岸サイトなども見応えがあります。

このほか、室戸市都呂にある国内唯一の横坑式津波避難シェルターや黒潮町佐賀の国内最大級の津波避難タワーなども見学しました。

都呂津波避難シェルターは横坑（幅3m、長さ約30mのトンネル部分）に約70名が避難待機が可能で、最奥には山の斜面に抜ける直径2.5m高さ約23mの立坑があり上部に電源設備も格納されており、水と食料もシェルター部分に備蓄されています。防災学習の一環として主に関西方面から中・高校生が毎年数多く見学に来ているとのことでした。

また、佐賀津波避難タワー（収容可能人数は約230名、高さ22m）にも全国から視察があり、住民参加型の避難訓練を年に4回実施しているほか、常時開放されているので近隣の住民が運動を兼ねて日常的に最上階まで上がったりしているとのことでした。

さらに、高知県の太平洋側中央部～西部に点在する地震碑や津波碑も十数ヶ所見て回りました。三陸地域の津波碑の多くは私の知る限り石材を矩形に加工したもので大きさもほぼそろっているのに対して、高知県のもののは大半が自然石をそのまま利用していて、形状も大きさも多彩であるのが印象的でした。当時の教訓を後世に伝えようという思いは同じですが、これらの差異はそれぞれが建立された時代や経緯を反映していると考えられ、多くの示唆に富んでいて大変興味深いと思います。



津波避難シェルターの外観
漂流物の衝突を防ぐ鋼鉄製の支柱が建つ



津波避難シェルターの内部には止水扉が2重に設置されている



佐賀津波避難タワー（黒潮町）



黒潮町の伊田安政津波碑
(安政南海地震)



須崎市の河原恵比寿神社南海
地震記録碑（昭和南海地震）

令和7年度 みちのく潮風トレイル&三陸ジオパーク シンポジウムを開催しました

令和8年1月31日（土）に久慈市アンバーホールにおいて開催したシンポジウムでは、沿岸市町村の首長をはじめ約170名が参加し、海外からの視点も含む三陸地域の魅力について、地域の方々とも共有し理解を深め地域資源の価値の再発見と今後の活用策を検討する機会となりました。

基調講演では、盛岡在住の外国人ガイドのクインラン氏から「絶景の独占、歴史・文化の深さ、地元住民との温かい交流、五感で感じる日本の日常など、歩くことで得られる多角的な体験が国内外で高く評価されており、震災の記憶だけでなく自然災害と共生してきた地域の歴史を知ることが、未来への教訓として世界で共有される意義を持っている」というお話がありました。

後半のパネルディスカッションでは、三陸ジオパークはトレイルの景観価値を上げる密接な関係。地元が連携して、両方を伸ばしていければと思う。ハイカーへの積極的な声掛けなど、人的な交流を通じて魅力を伝えることが期待されるという意見に耳を傾けました。

岩手県立大学宮古短期大学部
千葉洋平氏 学術アドバイザーに就任



シンポジウムに先立ち行われた 学術アドバイザー委嘱状交付式（前列左から4人目が千葉先生）



みちのく潮風トレイル
Michinoku Coastal Trail

令和7年度

みちのく潮風トレイル × 三陸ジオパーク シンポジウム

～世界とつながる三陸地域の魅力と持続的発展を考える～

みちのく潮風トレイルや三陸ジオパークなどを通じて、三陸地域の魅力を発信する機会が広がり、国内外からの注目が高まっています。多言語での対応や地域の魅力の発信、トレイルの状態維持や気候変動によるルート被害など、現場では様々な受入に関する課題も見えてきています。地域の自然や文化はすでに豊かな価値を持っていますが、その価値を“どう伝え、どう守るか”が今、問われています。そこで本シンポジウムでは、観光・ツアー造成・ハイキング・トレイル管理の専門家に加え、地域のガイドやDMOなど多様な関係者が集まり、三陸のポテンシャルと受入態勢の改善策を議論します。海外からの旅行者に響く発信だけでなく、地域の人が誇りを持って未来をつくり、地域経済にも貢献していくために、何ができるのかを一緒に考えていきます。



三陸ジオパーク
Sanriku Geopark

01 オープニングアトラクション
郷土芸能ステージ（久慈市・夏井大梵天神楽）

02 基調講演
「世界から見た日本三陸、みちのく潮風トレイルと三陸ジオパークの魅力」
登壇者：クインラン・フェリス、長谷川 晋

03 事例発表
「三陸地域におけるインバウンド誘客の取組」
登壇者：白木 智子
「ジオパークとトレイルの活用と三陸地域における地域連携活動の取組」
登壇者：楠田 拓郎
「みちのく潮風トレイルの受入態勢整備に向けた取組」
登壇者：中嶋 英俊

04 パネルディスカッション
「世界とつながる三陸～地域素材を活かした海外へのプロモーションと受入態勢の整備」
モデレーター：相澤 久美（認定NPO法人みちのくトレイルクラブ事務局長）
松田 功（三陸ジオパーク推進協議会事務局長）
パネリスト：クインラン・フェリス、長谷川 晋、白木 智子、楠田 拓郎、中嶋 英俊




展示会開催
さんりくジオパーク
かわらばん2025
受賞作品

Speakers:

 フェリス THREE GOATS アドベンチャーガイド 国際読書プロフェッサー 来国出身、岩手在住の登山ガイド、利根語、YouTuber、自然、歴史、精神文化をテーマに東北の魅力を発信している。	 長谷川 晋 「一社」トレイルブレイズ ハイキング研究所 代表理事 長距離トレイル文化の発展に尽力。国内外でロングハイクを経験し、2020年研究所設立、著書「Long Distance Hiking」。	 白木 智子 高ジャパン株式会社 ツアープロダクトマネージャー 2016年高ジャパン入社、海外エージェンツ業務を経て、現在は2024年に編成された産地開発チームのマネージャーを務める。	 楠田 拓郎 NPO法人体験村 たのはたネットワーク 理事長 観光地での職探しを通じ2006年に田野畑村に移住。観光を通じた地域活性化に取組む。NPOを設立し2017年より理事長に就任。	 中嶋 英俊 三陸DMOセンター センター長 岩手県職員、地域振興室特命課長（海外転勤）、観光課国際観光担当課長、文通政策室地方路線分課長などを経て、2025年4月から現職。
--	--	--	--	---



クインラン氏の基調講演（通訳は神谷氏）



久慈市アンバーホール（中ホール）

三陸ジオパーク国際交流会（オンライン） フランス オート＝プロヴァンス ユネスコ世界ジオパークと交流

令和8年2月5日（木）三陸ジオパーク推進協議会と岩手県が連携し、将来的な世界ジオパーク認定に向けた機運醸成やネットワーク構築につなげるため、オンライン交流イベントを開催しました。今回は、世界初のジオパークであるオート＝プロヴァンスユネスコ世界ジオパークから世界ジオパークの理念やジオパーク活動の講演をいただき、世界的な先進事例を三陸ジオパーク関係者で共有することができました。

オート＝プロヴァンス世界ジオパークの構成自治体であるディーニュ・レ・バン市と釜石市は、平成4年(1992年)に釜石市で三陸・海の博覧会が開催された際に「アンモナイトの壁」の原寸大剥離標本が釜石市に寄贈されたことをきっかけとして平成6年（1994年）に姉妹都市提携を締結しています。

実施時間 18時00分～19時30分 [フランス時間 10時00分～11時30分]



ジオパーク担当者や認定ガイドもオンラインで参加

<北部ブロック>

「内間木洞氷筍観察会」に参加したので

ジオサイトの「内間木洞」を紹介します！



現地の内間木洞説明看板

久慈市内から車で約40分。遠島山ふもとの内間木地区集落にある「内間木洞（うちまぎどう）」は、総延長6,350m以上を誇る国内屈指の巨大鍾乳洞です。自然がつくり出した壮大な地形と、冬季に洞内に現れる幻想的な「氷筍（ひょうじゅん）」が訪れる人々を魅了します。氷筍は冬場の洞内の天井から落ちる水滴が地面で凍りつき、筍（たけのこ）状に成長したもので、大きなものは2m以上にもなります。冬の内間木洞観察会では、美しい氷筍が群生して輝く神秘の世界を体感することができます。

内間木洞周辺の断崖や岩場は、龍泉洞や安家洞から続く、約2億年前の「安家石灰岩」でできているとされています。これは、かつて海底に堆積したサンゴ礁やプランクトンの死骸が岩石化し、海洋プレートの移動によって現在の場所に運ばれてきたもの。その後の造山運動や海面の変化により陸地化し、雨水による長い年月の浸食を経て、現在のような鍾乳洞が形成されました。まさに、地球の歴史を感じられる場所です。

洞内の気温は年間を通して約8℃と安定しており、夏でもひんやりとした空気が広がっています。内間木洞には、7種のコウモリや昆虫類など、貴重な生き物たちも生息しており、洞窟とともに、これらの動物たちを含めて岩手県指定天然記念物に指定され、自然環境と生態系を守るため、普段は研究や教育目的以外の公開はされていませんが、7月の「内間木洞まつり」と2月の「内間木洞氷筍観察会」の年2回だけ一般公開されています。この貴重な見学のチャンスには、毎回多くの方が来訪しています。ぜひ「内間木洞」の神秘を体感しにお越しください！



冬眠中のコウモリ



天井から浸みだした地下水由来の石灰石



洞内に広がる氷筍

編集後記：三陸ジオパーク検定を1月24日(土)実施しましたが、今回から「上級」が加えられたこともあり早速認定ガイドや初級合格者の受検者の申込が多数ありました。広大なエリアをもつ三陸ジオパークの問題は、サイト数もさることながら関連する事柄もその分多くなりますので、事前の学習範囲も広がります。

初級は制限時間(60分)を待たずに終了する方が多いのですが、上級は終了間際まで回答に悩む姿が見られました。年に1度の機会ですが、学習したことが三陸の地域資源を紹介するネタにもなるので、一般の皆さんにも気軽にチャレンジしてほしいと思います。 ～と～

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

(宮古地区合同庁舎2階)

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

https://sanriku-geo.com/

Facebookはこちら

